

二〇二〇年度 第一回 入学 試験 問題

適性検査Ⅰ（三鷹型）

試験時間 四十五分

注 意

- 1 問題は **1** のみで、7ページにわたって印刷してあります。
- 2 声を出して読むではいけません。
- 3 答えはすべて解答用紙に明確に記入し、**問題用紙と解答用紙を提出してください。**
- 4 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 5 **受験番号**を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

佼成学園女子中学校

受験番号

--

1

「文章A」と「文章B」を読み、あとの問題に答えなさい。

(※印の付いている言葉には、本文のあとに「注」があります。)

〔文章A〕

音楽一家に生まれたキクコは、十年以上ヴァイオリンを習っていましたが、両親が満足する成績を収めることができず、レッスンをやめてしまいました。ある日、※エスエスエスアイオリニストアイドル」と書かれた動画を見たキクコは、「これくらいの演奏で、こんなにほめられるなら、自分だって……」
と思い、動画の投稿とうこうを始めました。

キクコがランキングの一位でいられたのは、ほんの数時間だけのことだった。

それまで演奏系ネットアイドル界で絶対的人気を誇ほこっていたモモツチの行動は早かった。

新しく投稿されたモモツチの動画には「水着で弾ひいてみたよ♪」と書かれていた。

そして、そのタイトルが示すように、動画のなかでは、きわどいビキニすがたのモモツチが、ヴァイオリンを弾きながら、身をくねらせていたのだった。

あきららかに、キクコの存在を意識しての※パフォーマンズだろう。

モモツチの動画につけられたコメントには、こんなものがあった。

「へやっぱりモモツチ最高！ もう浮気うわきはしないぜ！」

そうコメントを書きこんでいたのは、キクコのファンを名乗っていた人物だった。

負けた……。

ここまでやるなんて……。

スマートフォンを片手に持ち、動画を見ながら、キクコは打ちのめされた気持ちでいた。

一瞬いつしゆんだけランキングの一位になったのに、すぐに抜ぬかれたこと。

ファンを奪うばわれたこと……。

悔くやしくて、ショックでたまらなかった。

そして、気づいた。

もう一度、勝つ方法。

人気を取るためには、もっと、ファンがよろこぶようなことをすればいい。

でも……。

キクコには、ためらう気持ちもあった。

心のなかで、べつの自分が問いかけてくる。

自分も水着になる？ そうしたら、きっと、次も相手はそれより話題たひになることを考えてくるだろう。

人気のために、受けるために、もっともっと※エスカレートしていく

んじゃないの？

ずぶずぶと底なし沼に、はまっていくように……。

軽い気持ちではじめてみたら、ほんの短い期間で、あつという間にファンが増えて、こんなことになっていった。

どうすればいいのか、本当はどうしたいのか。

キクコは自分でもよくわからなくなってしまった。

だれにもなにも相談できないまま、キクコは変わらない毎日を過ごす。

そして、日曜日。

アルバイトが終わって、こんもりとした山を見あげた瞬間、キクコはふと思った。

そうだ、山に行こう。

動画を投稿することに夢中になって、すっかり忘れていたが、いつか登ってみようと思っていたのだ。

早朝※シフトだったので、まだ時間はたっぷりある。

コンビニエンスストアを出ると、駅のほうではなく、反対側の道を歩きます。

ハイキングコースといっても、アスファルトで舗装されている道なので、普段着でふらりと散歩をしているようなひとも多い。

たまに本格的な装備を身につけた登山客がいるが、そういうひとは途中で脇道にそれて、※鬱蒼とした森のほうへと入っていく。

よく晴れて、青い空がまぶしい。

澄んだ空気を胸いっぱい吸いこみながら、キクコは大きく手を振って、坂道を進んでいく。

しばらく行くと、小学生くらいの男の子が立ち止まり、木の上のほうを指さしていた。

「父さん、あれ、ウグイスじゃない？」

そばにいた父親が、双眼鏡をのぞいて答える。

「うーん、いや、メジロだな」

父親から双眼鏡を渡され、息子ものぞきこむ。

「きれいな緑色！ あ、逃げちゃった」

「また探せばいいさ。ほら、なにか鳴き声が聞こえるぞ。コゲラかな」
仲のよさそうな親子連れを見かけると、キクコはほのぼのとした気持ちになりつつも、胸の奥がちくりと痛む。

自分は、両親とこんなふう楽しげに会話をした記憶なんて、ほとんどない……。

「こんにちは！」

通りすぎようとする、親子はこちらを見て、あいさつをした。

「こんにちは！」

キクコもあわてて、あいさつを返す。

歩きながら、キクコは考える。

もし……。

両親が、音楽の才能なんてなくてもいいよ、と言ってくれたら。

ありのままの自分を、受け入れてくれていたら……。ほかのだれかに認められていなくても、平気なのだろうか。

こんなにも「人気者になりたい」という欲求に、とらわれることはなかったのだろうか……。

ひたすら歩いて、山道を進んでいく。

一歩一歩、前へ、上へ。

体を動かしていると、これまで自分を縛っていたものが、ほどけていくような感じだった。

結局、進むためには、自分の足で動くしかないんだ。

山を登っていくほどに、インターネットの世界から、どんどん心が離れていく。

ファンとのつながりが増えて、たくさんの人に認められるのは、気分がよかった。

ほめられると、だれだって、うれしいものだ。

他人からの※称賛を、必死になって求めていた。

けれど……。

からっぽ。

本当は、なにもこの手につかんでいない。

いくらネットでもてはやされても、むなしだけ……。

そう気づいたとき、淋しさよりも、すがすがしい気持ち、キクコの胸には広がった。

もう、いいや。

キクコはすっきりした気分ですmartフォンを取りだすと、メッセージを打ちこんだ。

「kikuはネットを卒業します。みなさん、これまでありがとう

ございました！」

もったいない、という気持ちもある。

せつかく、たくさんつながりができたのに。

でも、気軽にはじめたのだから、気軽にやめてしまおう。

ボタンを押して、最後のメッセージを送信する。

そして、SNSの※アカウントを消去した。

顔をあげると、抜けるような青空が広がっていた。

いつもより、空が近い。

手を伸ばせば、雲に届きそうだ。

キクコは前を見て、ふたたび山道を歩きはじめた。

(藤野恵美「雲をつかむ少女」)

〔注〕

※SNS：インターネットを通じて、情報を交換こうかんできるサービスのこと。

※パフォーマンス：人目を引くためにとる行動。

※エスカレート：程度が激しくなること。

※シフト：交替勤務時間。

※鬱蒼：樹木がしげって、あたりが薄暗うすくらいさま。

※称賛：ほめたたえること。

※アカウント：SNSなどの利用者を識別する上で必要な符号ふごうや文字列のこと。

〔問題1〕

「ずばずばと底なし沼に、はまっていくな」とは、この場合、どのようなことを表していますか。五十字以上五十五字以内で説明しなさい。ただし、下の〈注意〉にしたがうこと。

〔問題2〕

「もったいない、という気持ちもある。せつかく、たくさんつながりができたのに。でも、気軽にはじめたのだから、気軽にやめてしまおう。」とありますが、このようなキクコの思いや、生き方について、あなたはどうか考えますか。あなたの考えを、具体的な理由をあげながら百八十字以上二百字以内で説明しなさい。ただし、次の〈注意〉にしたがうこと。

〈注意〉

- ・段落を設けず、一まず目から書きなさい。
- ・「や。や」などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の文字と同じます目に書きます。この場合、最後のます目に書いた文字と記号で一字と数えます。
- ・「。」が続く場合には、同じます目に書いてもかまいません。この場合、「。」で一字と数えます。

「文章B」

ホテルから子が持ち帰りしコースター葡萄の染みに少し汚れて

「かわいい子には旅をさせよ」という諺があるが、一人旅をする前に、家族で旅行をすることも、子どもが成長するよい機会になる。初めての景色に感動したり、珍しい食べ物に驚いたり、異文化に触れることも醍醐味だが、「人としてのマナー」を教えられるチャンスが、旅には多いと思う。

初めてホテルに泊まったとき、息子は「毎日そうじしてくれるんだね！ シーツもとりかえてくれるんだね」と、はしゃいでいた。洗面所で歯を磨いたり顔を洗うとき、息子は盛大にばしゃばしゃやって、あたりに泡や水滴を飛ばすタイプだ。家と同じようにやっているのを気にした私が、タオルでふき取っていると「ここでは、やらなくていいんじゃない？ おそうじの人が来るんだから」と涼しい顔で言う。「それは、だめ。ここまで汚かったら、おそうじの人だって、いやな気持ちになると思うよ」と、強くたしなめた。

部屋を出るときも、ざっくりベッドまわりを片づけたり、寝間着をたたむぐらいはして、息子に見せている。もつとも、私の母に言わせれば「あなたは、甘い。洗面所のふき取りも、ベッドの片づけも、子どもにやらせなさい」ということになるのだが……。

最近、※連泊の場合は「シーツ交換不要」のサインを出しておくこ

とも多い。「なんで？」と聞かれれば環境の話をする事ができる。

この夏の旅行での一つの収穫は「夜ごはんのときにテレビを見ない」という習慣を取り戻せたことだった。見せてはいけないと思いつつ、ついついという状態が一学期のあいだ続いてしまった。二年生になって宿題が増え、帰宅も遅いので、夕方のテレビを見てから食事では、どうも効率が悪い、というのが私の言い訳だったのだが。夏の二週間ほどの旅行のあいだ、レストランや宿では、テレビなしの夕飯が（当然のことながら）続いた。「なんだ、見なくても平気じゃん！」と親子で納得。旅は、日常の悪習を※リセットできる機会でもある。

旅は、人との出会いでもある。東日本大震災の直後に、私は息子と二人で沖繩へ避難した。仙台空港は閉鎖されていたので、陸路でなんとか山形まで行き、そこから飛行機を乗り継ぐという行程だ。空港は西を目指す人たちで騒然としていた。※キャンセル待ちの人であふれ、売店の食べ物、きれいさっぱり売り切れていた。お金さえ持っていればなんとかなると思っていたのだが、甘かった。そのときの情けない一首。

空腹をうったえる子と手をつなぐ百円あれどおにぎりあらず

そのとき息子が「あ、ゆでたまごだ！ ゆでたまご買って！」と近くに座っているおじさんを指さした。確かに、おいしそうに食べてお

られる。※おずおずと「あのう、それはどこに売っていましたか？」と尋ねると、家から持ってきたものとのこと。意気消沈して息子に告げていると、ふいにそのおじさんが、カバンから新しいゆでたまごを「ぼうず、食うか？」と取り出してくれた。

「ありがとう！」小さなラップにくるんだ塩までつけてもらい、むしやむしやと、恥ずかしくなるほどの勢いで食べる息子。その様子を、おじさんはニコニコして見つめてくれていた。状況を考えれば、彼にとっても貴重な食べ物だったはずだ。心からありがたかった。

子どもにとっても印象深いできごとだったらしく、それからしばらくは「オレ、大きくなったら、ゆでたまごやさんになろうかな」とまです言っていた。よほどおいしかったのだろう。そのおいしさも大事だが、将来、おなかをすかせている子どもがそばにいたら、食べ物を分けてあげられるような、そんな大人になってほしい。そう言うと、「もちろん！」と力強い言葉が返ってきた。

不安を抱えて西へ西へと向かう旅は、決して楽しいものではなかったけれど、空港でのこのできごとは、思い出すたびに心が熱くなる。

行きずりの人に貰いしゆでたまご 子よ忘れるなそのゆでたまご

(俵 万智『ありがとうのかんづめ』)

〔注〕

※醍醐味：物事の本当のおもしろさ。深い味わい。

※連泊：同じ宿に二晩以上続けて泊まること。

※リセット：すべてを元に戻したり、断ち切ったりすること。

※騒然：ざわざわと騒がしいさま。

※キャンセル：予約などを取り消すこと。

※おずおず：ためらいながら物事をするさま。

〔問題3〕

強くたしなめた とありますが、筆者が息子を強くたしなめたのは、なぜでしょうか。筆者の息子への思いを考え、四十五字以上五十字以内で書きなさい。ただし、後の〈注意〉にしたがうこと。

〔問題4〕

将来、おなかをすかせている子どもがそばにいたら、食べ物に分けてあげられるような、そんな大人になってほしいとありますが、筆者は息子にどのような大人になってほしいと望んでいるのですか。また、あなたは将来、どのような大人になりたいと思いますか。自分の言葉で百八十字以上二百字以内で書きなさい。ただし、次の〈注意〉にしたがうこと。

〈注意〉

・段落を設けず、一まず目から書きなさい。

・「や」などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の文字と同じます目に書きます。この場合、最後のます目に書いた文字と記号で一字と数えます。

・「。」が続く場合には、同じます目に書いてもかまいません。この場合、「。」で一字と数えます。